

F u - Z i n

第31号

平成24年11月発行



第28回 NPO博多の風フォーラム

講演

・講師：松本 卓士 氏  
(RKB毎日放送報道部記者)

・演題：『報道見聞録』

報告

第28回NPO博多の風フォーラム  
報道見聞録



なにかいいこと ちよつといいこと はじめよう！  
—新しい社会貢献のカタチ 集げば、出逢い、つながる—  
ふくおか共助社会づくりフェスタ

報告

第11回 博多のおいしゃんと歩こう  
追い山笠コース探訪

告知

第12回 祭童子あつまれ  
楽文コンテスト表彰式

## 近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください

### 平成23年

- 4月 第26回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師：高島宗一郎氏(福岡市長)
- 5月 第19回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 6月 第10回 追山コース探訪 開催  
第11回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第20回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 11月 第27回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師：大庭宗一氏(NPO博多の風理事長)  
沢田幸二氏(KBC福岡放送アナウンサー)

### 平成24年

- 4月 第28回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師：松本卓士氏(RKB毎日放送報道部記者)
- 5月 第21回 はかたの町クリーン作戦 開催
- 6月 第11回 追山コース探訪 開催  
第12回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第22回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)

### NPO博多の風の歩み

- 設立  
平成10年 9月  
任意団体『博多の風』設立 代表：大庭宗一
- NPO登記  
平成12年 6月  
『NPO博多の風』として登記 理事長：大庭宗一

### NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
  - ・博多の風フォーラム開催
  - ・広報誌・HP発行
  - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
  - ・作文コンクール(楽文コンテスト)実施
- 地域環境向上事業
  - ・博多の町親交  
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
  - ・書籍出版
  - ・博多祇園山笠の振興
  - ・追山コース探訪開催
- 協力事業
  - ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027  
福岡市博多区下川端町8-16 -302  
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakatanokaze.jp  
URL http://hakatanokaze.jp



# 報道見聞録

去る平成24年4月21日、第28回NPO博多の風フォーラムが福岡市立博多小学校「表現の舞台」にて行われました。RKB毎日放送報道部記者の松本卓士さんに登壇いただき、政治記者として国政を担当されてきた経験でしか知りえない話や、情報を得るための政治家との付き合い方、マスコミの情報とは違う政治家の姿、政治部と社会部の目の違いなど様々なエピソードを分かりやすく話していただきました。最後には大庭理事長と司会を務める沢田アナウンサーも加わり、地元福岡のマスコミの話や地方行政の話などをお話いただきました。

## ■一人の記者として見つめた大震災

皆さん私が車椅子で出てきて驚かれた方もいるでしょうけど、4年半前に運動をやっておりまして、車椅子になってしまいました。僕もケガをする前は障害者の人達を取材したりとかしていたんですけども、まあ車椅子になってみて自分が障害者のことをいかに何も知らないかっていうことに驚きまして。入院中は死ぬことばかり考えてました。車椅子になってよく同業者の方から障害者の取材をしないか？って言われるんですけどね。ただ、僕は障害者の取材は基本的にしません、というかしらない事になっています。それはなぜかという、私みたいな障害を持つ人間が障害者についての番組を作るっていうのは、記者として「第三者の立場」が担保できない、何が目的なのか分からなくなるということを私は非常に恐

ているからなんです。ただ3月11日の大震災の時だけは、普通の人であつても大変な状況である中、障害を持つ人にとつてはもっと大変なわけで、他にこの状況を伝える事ができる人はいないだろうというところから自分なりに「第三者の立場」というスタンスを取りつつ取材を行ってきました。

その大震災で発生した大量の「がれき」についてなんですが、福岡市は受け入れられない、北九州市は受け入れるという決定をしました。僕が重要だと思っているのは、決してがれきを福岡で全て受け入れないこと、というわけではなくて「メニューを提示する」ということが重要だと思つているんですね。「自分の所ではこれはできないけど、これならできます」ということをそれぞれが持ち寄る。それでいいと思つています。それもせずに「被災地の瓦礫だからイ

ヤだ」というのは思考が停止しているとしたか思えなくて、こういう時だからこそ知恵を出すのが日本人なんじゃないのかなあと思つております。

## ■「政治記者」になつたが故に

私が政治記者になつたのは十数年前の森政権の時です。東京のある新聞社に異動で行く事になりました。そこで「君は福岡から来たから、山崎（山崎拓）についてくれ」と。当時の山崎さんというのは自民党の中では非主流派、普段は口数の少ない方ですが飲むと非常に面白い方でした。僕が福岡から来たということで特別に目をかけてくださったんでしよう、国会記者のバッジとは別に国会の中を自由に行ける秘書用のバッジがあるんですが、それをいきなり手渡されて「君、ついて来なさい」と言われ、いろんな所を付いて回つてました。陳情の場面であつたり政治家の秘書同士



松本卓士(まつもと たかし)  
1969年12月20日生まれ  
記者生活のほとんどを国政担当として活躍中。その一方、地元福岡でも政財界から町おこし等のネタまで、幅広い人脈を生かしジャンルにとらわれない分野で取材活動をしている。好きな言葉は「風雪育大樹」「森の時計は静かに時を刻む」。

す。だけどそれを怖いと思つた事は全然ありません。つまり、相手の懐に入らずして相手のことを知らない、つてことを恥だと思わないさいよと逆に僕は言いたいわけです。僕は新人記者に対して、良い記者になるためには「臆病になれ」とよく言つてます。僕の好きな漫画「ゴルゴ13」に出てくる名セリフに「ウサギのように臆病になれ」つてのがあるんですが、まさにそれです。何故か？記者つてのは頭が高いですね。マスコミの間つてのはプライドだけは高くて軽く扱われるのが嫌なんで頭を下げきれないつてよくいうんです。でも「知らないことがある」ことに対して怖いと思え、と。そ

う思つた時、もちろん小説を読むのもたまにはいいけど、実用書を読んだり、他社に追い抜かれないように、コソコソ人に会いに行つたり話したりするのがいかに大事か、ということに繋がっていくわけ

今の記者つていうのは土日になると気持ちよく休むし、夜は真っ直ぐ家に帰りますし、飲むときも記者仲間だけで飲んでいゝんな人と飲まないんですよ。挙句の果てに「おつてくれる人」のところに飲みに行く。こんなの、タカリ以外の何者でもない。そういう記者つていうのが今、実に多くて、「ちよつとあなたの意見を聞きたい」とか言つて役職のあるおごつてくれそうな人になつて、さりげなく聞いていくんです。意見聞きたいんだつたら一番汗をかいて動き、上司の悪口を言いたいような人に会いにいけばいいんですよ。自分で自分のことを褒めるんですが（笑）、僕だつたら絶対そうし



■「やっぱり憧れの国「ジャパン」！」  
話は変わるんですけど、最近よく「日本はダメになつてきている」という話をされています。でも本当に

## ■「支店経済」

そうなんでしょうか？イラクにサマールという所があります。かつてそこに自衛隊が行くのが行かないので問題になつたのでご存知の方も多いいと思います。あの時なぜ現地に行つた自衛隊が狙われなかつたのか？答えの1つ目はなんと「キャブテン」のステッカーを自衛隊の車両にドーンと貼つていたからなんです。トッティやジダンといったアラブ人のサッカー選手が何人もいるようにアラブ人にとつてサッカーはとても人気があつて、「キャブテン」もあちらでは物凄く影響力があるんですね。2つ目に、イラクでの活動中に重機を使つたり土木工事を行つたりするんですけれど、日本人は技術者だけを派遣して作業自体は現地の人にやらせたんです。現地の人達は、その技術を学び、仕事を覚えていった。そうすることによって信頼されていくようになったわけです。3つ目、逆に日本の自衛隊だけがやらずに他の国はみんなやつたことがある。それが「食い逃げ・略奪・レイプ」なんです。

他にもイギリスのBBCという放送局が行つたアンケートや、タイ・バンコクの女子大生への調査でも、世界に対して影響力のある国・生まれ変わったらなりたい国の人の1位にそれぞれ「日本」や「日本の女性」が挙がつているんです。こんなふう

いて悪口を言つたりするんですけど、思つた以上に世界各国からは憧れの目で見られていくわけなんです。ね。

## ■福岡市、真の「支店経済」へ

最後にここ福岡について言わせてください。福岡市というのは有名な企業の「支店」がいつばいあります。その「支店経済」を福岡市や地域の企業だけが勝手に大きくさせてしまつてしまつてい

ただ、福岡には商社など世界規模の会社の支店が沢山あるわけで、その人達の知恵つていうのを受け入れられる「場」というのをもつと作れないかなあ、と思うんですね。支店経済の「頭脳」を活用しきれない内弁慶的なところが福岡市つてもつたないなあと。それさえあれば大阪なんかより更に大きな街になれるんじゃないのかなあと僕は考えるんです。

「支店の人達が福岡を大きくしていつてくれるんだ」ということを前提にして、もつという人々と積極的に出会い、そして学んでいく。そうすれば、さらに素晴らしい街になつていくのではないかと。そんなふうには思つてい

告知

## 第29回 NPO博多の風フォーラム 開催のご案内

■開催日時:平成24年11月17日(土) 開場:13:30/開演:14:00 ■開催場所:博多小学校「表現の舞台」

講演:「岩松・宗一・沢田の城談じゃないぞ」 講師:岩松 城氏(毎日新聞西部本社編集局長)

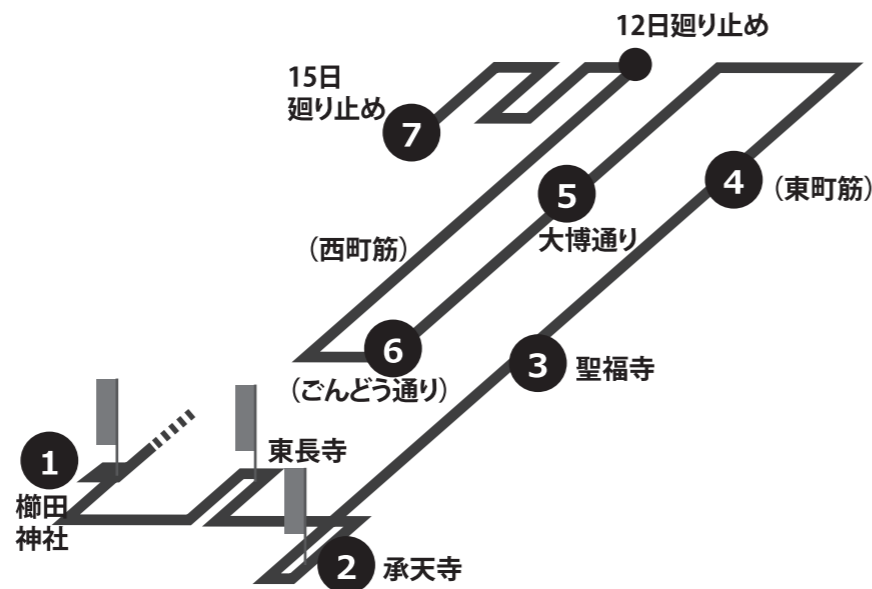
※ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ご参加ください。多数の方のご参加をお待ちしています。

第11回 博多のおいしさんと歩こう

# 追い山笠コース探訪

今年で11回を数える「追い山笠コース探訪」を平成24年6月3日(日)に150名を超える参加者を迎え、実施しました。応募者多数による抽選にも関わらず、今年で5回目の参加者もいらっしゃいました。今年から、新聞紙上による告知に加え、福岡市の後援を頂き市政だよりによる案内なども試みました。結果、小さなお子様を連れた家族連れや、グループ単位の参加者が多く見られました。また、昨年参加者全員にアンケートをお願いしておりますが、「子ども連れの参加でしたが、何度も声を掛けていただき、気遣ってもらったおかげで、楽しかったね！また行きたい。」や、「えっ！うどんや饅頭も博多からなの？興味を持って歩くことができました。」「ガイドブックやパンフレットには無い山笠の楽しさを味わえてよかったです。」などの声を頂きました。

(追い山笠コース探訪 世話人：中川原 謙二)



## 1 櫛田神社



757年創建。正殿に大幡主神、左殿に天照大神、右殿に素盞鳴神が祀られている。5月の博多どんたく、7月の博多祇園山笠、10月の博多おくんちと、博多を代表する祭りが社域周辺を中心に繰り広げられる。

## 2 承天寺



1241年 宗から帰朝した聖一國師が開祖した禅寺。うどんの発祥地とも知られ「饅頭蕎麦発祥之地」の碑が建てられている。清道を駆け抜ける山笠を間近で見れるので、人気の高いポイントです。

## 3 聖福寺



1195年 禅宗の開祖 栄西が開いた日本最初の禅寺。栄西は我が国の茶祖としても知られ、背振山や聖福寺に茶種をまき、ここから宇治などに広められた。博多塀を見ることもできます。

## 4 東町筋



道幅の狭い東町筋では、山笠の迫力を間近で見ることが出来ます。昇手は、棒から離れる時に周囲の状況を確認しながら離れるようにしています。実際に歩くと、意外な高低差を感じるポイントもあります。

## 5 大博通り



大博通りは、道幅が広いことや、様々な要因が重なって山笠が振れることや蛇行したりする場合があります。流れによっては、広い車線のなかで、どの位置を走るかを決めていたりします。

## 6 ごんどう通り



道幅の広い大博通りから西町筋へ入っていくもとても道幅の狭い通りです。電柱などにぶつからないように注意を払いながら昇ります。昔、ごんどう商店という店があったので、この名前と呼ばれています。

## 7 15日廻り止め



山留めから約5キロの道のりを経て到着する15日の廻り止め。手前の直線に差し掛かって、廻り止めの看板が見えると、最後のひと頑張りです。自分が昇る棒に力を伝え、声を出してもっていきます。

### ～参加者の声～



「初めて全コースを説明を聞きながら歩いてとても良かったです。一度歩いてみたいと思っていたのが実現できてうれしかったです。」

「山笠は毎年見っていますが、テレビで解説していない説明を聞いて、参加して大変良かったと思います。」

「実際に歩いたので、山笠が寄り身近に感じられました。お世話になりました。」

「博多の歴史も学べて、すごく楽しめました。」

「追い山笠を見に来たのは10数年前でした。改めて道を廻って景色の変化を感じました。楽しくなりました。今年の追い山中継のTVを更に深く見る事ができそうです。」

「新しく聞く話ばかりで、博多の町を新発見できました。ありがとうございました。」

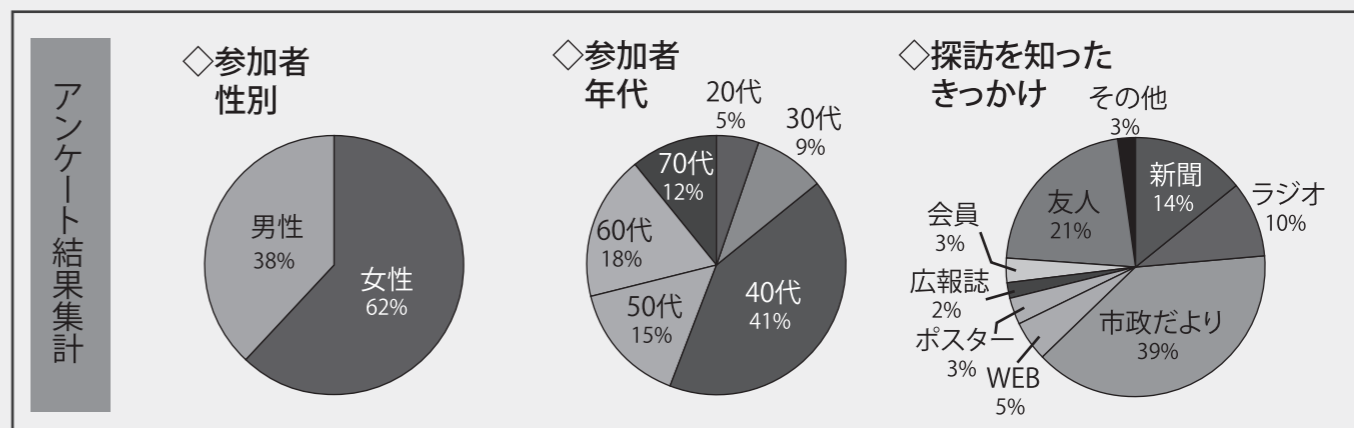
「コースを廻って、山笠の知らなかった部分を聞いてよかったです。楽しみが増えた気がします。」



「分かり易い説明で楽しめました。」



「実際に歩いて廻ってみると、結構長い距離であることや狭い所などがあることが良く分かって面白かった。」



大庭宗一理事長が福岡市の

# 「福岡市市民公益活動推進審議会」に

委員として参画

大庭理事長は、昨年「アイランドシニア・未来フォーラム」の委員として参画され、まちづくりの中で必要なことについて提言を行いました。また、平成22年から「福岡市市民公益活動推進審議会」の委員としても参画されています。この会では、市民一人ひとりの自治に係る意識及び意欲を高めるとともに、より多くの市民の参画を得て、市民公益活動の活性化を図り、もっと共働による街づくりを推進し、自治都市・福岡を築くことを目的として意見の交換をしています。

各委員から「新しいニーズがどんどん出てくることによつて、これまでの行政サービスが追いついていかなくなっていく。自らの手で社会のニーズにこたえるのがNPO」「市民がその問題を課題にしたときに変化がおきる」「NPOと地域が連携することは重要」「NPO自身に人材を育成するスキル、ノウハウも必要」「NPOの活動自体が知られていない、情報が不足している」「各校区にもNPO法人を自治協自体が立ち上げて、寄付を集めて運動を展開していくのが一番理想ではないか」「NPO自身も自立できる事業をすることもNPOとしてのあり方」など、さまざまな意見を出し合いながら、市民公益活動の推進に係る施策についての答申を福岡市・高島市長に対して行っています。

「福岡市市民公益活動推進審議会とは」

福岡市市民公益活動推進条例に基づき、より多くの市民の参加・参画を得て、市民公益活動の活性化を図り、それによって共働によるまちづくりを推進するために必要な事項について調査審議する会で、学識経験者、地域活動実践者、地域関係者、NPO・ボランティア関係者、企業関係者、市職員からなる委員によって組織されています。

各委員から「新しいニーズがどんどん出てくることによつて、これまでの行政サービスが追いついていかなくなっていく。自らの手で社会のニーズにこたえるのがNPO」「市民がその問題を課題にしたときに変化がおきる」「NPOと地域が連携することは重要」「NPO自身に人材を育成するスキル、ノウハウも必要」「NPOの活動自体が知られていない、情報が不足している」「各校区にもNPO法人を自治協自体が立ち上げて、寄付を集めて運動を展開していくのが一番理想ではないか」「NPO自身も自立できる事業をすることもNPOとしてのあり方」など、さまざまな意見を出し合いながら、市民公益活動の推進に係る施策についての答申を福岡市・高島市長に対して行っています。

◆福岡市のWEBサイト  
資料や議事録も公開されています



◆Fukuoka channel  
昨年のフォーラムの様も動画で公開



好評発売中！ 大庭宗一の大人気エッセイ

シリーズ第7弾

# 「明日への一言。7」

熱いメッセージがいっぱい詰まったエッセイ集です。



定価600円(税込)

NPO博多の風のホームページでも購入申し込みができます。

人気シリーズ「自分頑張れ。」も好評発売中です



## 告知 第12回 祭童子あつまれ 楽文コンテスト表彰式

平成24年11月17日(土)開催(予定)  
開場10時30分 開演11時  
会場 博多小学校 表現の舞台

今回で12回目となる楽文コンテストですが、7月から9月の期間に、福岡市内外の小中学生から900名の応募がありました。1次選考から3次選考を経て、作品を選ばせていただきました。家族や友達のこと、お祭りや夢中になっていることなど、「みんなが大好きなこと」について書いた作品です。優秀作品の表彰と、各賞代表の方の作品発表を予定しています。ご期待ください。



第11回の入賞者の皆さん(平成23年10月)

## 中止 第22回 はかたの町クリーン作戦

平成24年10月27日(土)雨天中止

「安全・安心の街づくりはきれいな街から」ということで、年に2回追い山コースを中心に、清掃活動を実施しています。冷泉公園の「青い幟」が目印です。  
今回は残念ながら雨の為、中止となりました。次回開催は来年春の予定です。



第21回の模様(平成24年4月)

## NPO博多の風 賛助会員募集のお知らせ

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お知り合いの方をご紹介ください。

お問合せ  
「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)

E-mail info@hakatanokaze.jp  
FAX 092-263-7188

NPO博多の風の最新情報はホームページに掲載中です。



URL http://hakatanokaze.jp

〔編集後記〕

10月末になり、ようやく肌寒さを感じるようになってきました。10月31日のハロウィンに向けて仮装行列などのイベントなどが行われています。この次期に玄関先やドアにかぼちゃや、おぼけの飾りなどをする家も増えていきます。スーパーマーケットの野菜売り場にも、オレンジ色のかぼちゃが置かれ、菓子メーカーからもハロウィン用のパッケージのお菓子が出ていたりします。

私が小学生だった30年前は、ハロウィンはあまり一般的ではなかったと思います。今となっては季節の催事の一つとして、われわれの生活の身近なものになってきているようにも思います。

お正月は神社に初詣に行き、お盆には迎え火を吹き、クリスマスにはケーキを食べ、亡くなったら、お坊さんにお経をあげていただく。など、身の回りには様々な習慣があります。ハロウィンがかぼちゃを飾るのも、様々な異文化をうまく取り入れて、生活を楽しくするように日本人の特性のように感じました。

(中山 肇)